

第7次茅野市行財政改革推進市民委員会第1回委員会会議結果報告書

【担当課】企画財政課

会 議 の 名 称	茅野市行財政改革推進市民委員会 第1回委員会		
開 催 日 時	平成29年8月3日(木) 18時30分～20時30分		
開 催 場 所	市役所議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開	非公開	傍聴者の数 0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
市長	<p>○議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 委嘱書交付 3 市長挨拶 4 自己紹介(資料1) 5 正副委員長の選出 6 正副委員長挨拶 7 諮問 8 案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 茅野市行財政改革推進市民委員会について(資料2) (2) これまでの行財政改革の取組について(資料3、参考資料1, 2) (3) 茅野市第5次総合計画と茅野市行政経営基本計画について(資料4) (4) 茅野市を取り巻く時代の流れとこれからのまちづくりの課題について(資料5) 9 その他 10 閉 会 <p>○議事録</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 委 嘱 <ul style="list-style-type: none"> ・市長から委嘱書を交付。 3 市長挨拶 <p>茅野市ではH7に行財政改革大綱、H11に行財政改革改訂版を作成、世の中の変化に合わせて市の行政運営、財政運営についてより確実な対応を取っていく取組を行ってきた。</p> <p>H16、諏訪地域6市町村合併が破たん。それを受け、諏訪圏域ではそれぞれの努力で魅力あるまちづくりを進めている。</p> <p>H17に第1次となる行財政改革推進プログラム(5年間)の計画を策定し、よりスリムで効率の良い行財政経営をしていく取組をスタートさせた。この行財政改革推進プログラムを作成・推進するにあたり、進行管理をする役目をこの推進市民委員会をお願いをしている。それぞれの一期の任期が2年という事で、第1次から現在の第7次まで14年間となる。</p> <p>推進プログラムはH17に第一次を、H22に第2次、H27に現在の第3次を</p> 		

	<p>策定し、本年が3次の最終年度となる。</p> <p>H26～H28は財政構造改革期間であり、厳しい財政状況の中でも基金を取り崩さないことを目標とし、それぞれに細かい所も見直す中で財政運営に取り組んだ結果、昨年も本年も基金を取り崩さなかった。また基金残高は30億円を維持している。今後人口減少が進む中でもこの規律を守って行財政運営の取組をしていく。</p> <p>茅野市の第4次総合計画はH29で終了となる。H30年度からどういった行財政運営をしていくか、これから皆様と共に計画を作っていくが、この第5次総合計画はそれぞれの分野において分野別計画をつくり、それをカートリッジのようにはめ込んで市全体の計画としていく。その中で第4次の行財政改革推進プログラムというかたちではなく、行政経営全般を網羅する行政経営基本計画というものを策定し、その中に行財政改革プログラムも入れる予定。</p> <p>まちづくりをしていく大きな柱のひとつになる行政経営を、これからの5年、10年でどういった方向性を持っていけば良いか、市民委員会の皆様にご提言・ご意見をいただきたい。</p>
	<p>4 自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員が一人ずつ自己紹介をした。 ・市職員が一人ずつ自己紹介をした。
事務局	<p>5 正副委員長の選出について</p> <p>初回の会議であるため、正副委員長が決まるまでは市長が座長として進行を行う。</p>
市長	<p>正副委員長が決まるまで議事を進めさせていただく。条例の中に、正副委員長は、委員から互選することになっているがご意見は。</p>
委員	<p>選出について事務局で腹案はあるか。</p>
市長	<p>事務局、案を示してください。</p>
事務局	<p>腹案として、正副委員長共に前回の市民委員会同様、委員長に金子好成委員、副委員長に鳥居陽介委員にお願いしたい。</p>
市長	<p>前回に引き継ぎまして、委員長に金子好成委員、副委員長に鳥居陽介委員をと、事務局が腹案をお示ししたがよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
市長	<p>賛同いただいたので、委員長を金子委員、副委員長を鳥居委員にお願いします。</p>
	<p>6 正副委員長挨拶</p>
委員長	<p>まだまだ経験不足ではあるが、一生懸命務めさせていただく。</p>

副委員長	今回で3期目。委員長のサポートと共に、この委員会運営に尽力させていただく。
事務局	7 諮問 市長から金子委員長に諮問書の交付を行う。 (市長退席) 以降、金子委員長による進行とする。
委員長	案件に移る前に、事務局から審議会の公開について説明をする。
事務局	・・・審議会の公開についての説明・・・
委員長	この審議会は公開することとし、会議録については発言者の氏名は匿名とし、委員と記載して、HPに掲載するがよろしいか。 (異議なし)
事務局	8 案件 (1) 茅野市行財政改革推進市民委員会について ・・・資料2に基づき説明・・・ (2) これまでの行財政改革の取組について ・・・資料3、参考資料1, 2に基づき説明・・・
委員長	この市民委員会は皆様のご意見を何でも言っていただく事が重要である。ここで6期目となる鶴石委員から、新しい委員のためにもご意見をいただきたい。
委員	行財政改革推進市民委員会は、ムダ遣いをなくす事に視点を向け、職員のレベル向上、補助金の使い方にも効率的かつ効果的になるよう絞って使うようにと、意見を述べてきた。そういった面で茅野市の予算は200億円に向かって縮小というより、節減といった形で行財政の努力の跡がみられる。 行政経営を市全体でみると支出ばかり抑えるだけでは成り立たない。収入も考えていかないとじり貧になってしまう。 行財政改革市民委員会の目的とは外れるが、収入を増やす方法として産業の活性化や、生産年齢人口世代の移住促進をいかにして進めるか。支出と収入の両輪で回すことが重要となる。現在の状況のままだと扶助費はいずれ40億円となる。経常収支比率が若干良くなっているが、200億円の予算で91.3%は非常に高い。さらに扶助費が年々増加となれば自由に使えるお金は益々減ってしまう。 茅野市には従業員2,000人3,000人といった大手企業がなく、最大手のイースタンは韓国企業の傘下に入った。今後は中堅企業を東南アジアに負けないよう、いかにして伸ばしていくかが重要になる。 諏訪地域は東京圏からは日帰り圏内である事は、非常に有利といえる。

	<p>リニア中央新幹線の開通をどう産業活性化に活かすか、本格的に真剣に突っ込んだ議論が必要である。市町村の横串も進めることが必要で、改革の資質や経費節減の議論ばかりではなく、収入を増やすことを考えなければならぬ。しかし、増やす部分がなかなか実を結ばないところに課題とジレンマがあると感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>企業がいかにして生き延びるかという業態開発の仕事をしてきた。その観点からの意見を述べたい。先日 NHK で放送された番組に大変感激した。イメージ戦略が素晴らしい。</p> <p>※イタリアから茅野市に移住した観光まちづくり推進室のクリスティーナが、笹原地区や苔の森など茅野市の魅力を紹介していた。</p> <p>茅野市には第二次産業への就労者が多い。全体的な業態開発の中でもハードを中心にやっている所はなかなか変わるのが難しい。</p> <p>この行財政改革推進市民委員会に女性が3名いらっしゃるの心強い。女性の観点、視点で居心地の良い茅野市をつくる必要性を感じている。</p>
<p>事務局</p>	<p>(3) 茅野市第5次総合計画と茅野市行政経営基本計画について</p> <p>・・・資料4に基づき説明・・・</p>
<p>委員</p>	<p>行政経営基本計画は、第5次総合計画の一分野の計画という位置づけなのか。第5次総合計画の全体像を一度示していただきたい。市民プランの作成時も産業振興、農業振興、観光振興など項目の中の行政経営、行財政改革として議論をした。今回の計画全体の基本構想はこうなっていて、その中の行政基本計画という位置づけであると説明があった。財政運営に財源の確保という言葉も出てくるが、財源の確保は行政市民委員会の中だけでは決められるものではない。他の部署でどういう事を構想とするのか。茅野市の魅力を更に盛り上げるために、どういった活動をして財源へつなげるのか。その財源につながったものを、どう効率的に使うかという形にリンクしていかないと、手前勝手だけで作ったものを『実行してください』といってもうまく回らないと思う。</p> <p>その辺の全体のねらい目というか、第5次総合計画の基本的な考え方、市民プランから見て直すところ、加速しようとするところを一度説明していただくと分かりやすいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料5に、今までの社会背景、市民プラン、現在の総合計画で取り組んだ課題、今後の展望についてまとめさせていただいた。これらの状況を共有していただき、計画づくりを進めていきたいと思う。</p> <p>もう少し踏み込んだ体系を示した方が議論をしやすいの意見があった。第5次総合計画の策定については基本構想と基本計画という二層構造で計画策定をしており、現在の市民プランも同様である。その基本計画の中に各分野の個別計画をあてはめていく。</p> <p>行政経営の分野については行政経営基本計画といった個別計画を、行政経営分野の計画として入れ込みたいと考えている。</p> <p>財源については、確かに税収を上げるためにどういった取組が必要なのか。工場誘致などの産業振興も絡んでくるが、今後は事務局で資料出しをしていく中で議論を深めさせていただきたい。</p>

委員	<p>市民プランを作った時には、行政経営、産業振興などいくつかの部に分けて部会長を決め、部会長連絡会で全体の議論内容や進行状況を把握していた。今回、情報共有についてはどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>それぞれの政策の分野については横との連携、情報共有を大切にしながら進めていきたい。今のところ、まだ各分野でも大まかな計画策定の段階である為、ある程度足並みが揃ったところで各政策の代表者と共有し、進める予定である。</p>
事務局	<p>市民プラン作成時には8つの柱ごとに部会をつくり、正副部会長が円卓会議を行って全体調整しながら部会ごとに計画を作っていた。今回総合計画審議会の基本構想をまとめているが、総合計画の基本構想でもやはり分野別計画ごとに、双方向のやり取りの中で基本構想がまとまり、それを受けて分野別計画の策定作業を行わないとうまくいかないのではないかとという意見もある。基本構想と基本計画を繋げるような仕組みを事務局でも検討している。</p>
事務局	<p>(4) 茅野市を取り巻く時代の流れとこれからのまちづくりの課題について ……資料5に基づき説明……</p>
委員長	<p>様々なデータから基づいた茅野市の課題と取組みの説明だったが、それに伴いこれからの委員会で、行政経営基本計画の策定を行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 住民自治 ② 政策運営 ③ 財政運営 ④ 情報受発信 <p>これら4つの政策の柱を中心に委員会を進めることになるが意見はあるか。</p>
委員	<p>今までの第3次行革プログラムについては行財政運営の適正化・効率化という言葉を使ってきた。これからは5本の基本政策を後ろ盾する形で行政経営という一分野というが、行政経営というこの5本の政策を含め、まちづくり全体を指すのではないかと感じる。今までの行財政改革という言葉とは、少しイメージが違う。</p> <p>4つの柱については、まさに行財政改革の事だとはっきりしている。政策横断プロジェクト。プロジェクト、プログラム、プラン、様々あるが、プロジェクトとは組織なのか、計画なのか説明がほしい。</p> <p>平成27年に、茅野市地域創生総合戦略を策定した。人口減少・少子高齢化の計画はどのように反映されるのか。</p>
事務局	<p>行政経営は、まちづくり全体を示すことではないかのご意見だと思う。現在の市民プランは8章立てであり『保健・医療・福祉』『環境』『子育て・教育』『産業・経済』など枠組みの中のひとつに『行政経営』があり、今まで市民プランを推進してきた。その名称については次の計画でも継承させていただいている。</p>

	<p>政策横断プロジェクトの考え方については具体的には計画をつくる又は改定するといった考え方である。</p> <p>茅野市地域創生総合戦略は政策横断プロジェクトの1つの計画として人口減少、少子・高齢化対策の推進の計画として位置づけさせていただくという意味である。</p> <p>災害に強い支え合いのまちづくりの推進については、地域防災計画があるため、必要に応じて改定していく。</p> <p>縄文を活かしたひとづくり、まちづくりの推進については、縄文プロジェクトを位置づけていく。</p> <p>多文化共生・情報化については新規に計画を策定し、政策横断プロジェクトに位置づける。</p>
委員	<p>この会議体の位置づけ、役割、責任について、他の会議体との関連性などが整理できていないため知りたい。</p>
事務局	<p>P68 に策定スケジュールとこの委員会での役割を簡単に示させていただいた。今後策定していく行政経営基本計画について検討していただくのが、この委員会の大きなミッションである。それに向けて事務局から示した資料に意見をいただき、修正・反映を会議の中で繰り返しながら計画作りを進めていきたい。</p> <p>最後はこの委員会から基本計画(案)の答申をいただきたい。</p>
委員	<p>茅野市に様々な会議体があり、この会議はどこに位置づけられているのかが知りたかった。企画・立案ではなく検討会でもなく、それぞれ専門家の立場で議論し、確認・検討していく審議会ということか。</p>
事務局	<p>この行財政改革市民委員会は基本的には審議会の役割であり、条例の中でも審議会の位置づけとなっている。市からある事案に対し、検討の要請が来た場合には調査・検討のうえで答申をいただく。それを基にして最終的には市が決定する。検討する項目としては、市役所の組織のあり方、職員の人数、財政計画を施策にどのように重点的に位置付けていくかなどである。今回の5次総には5つの分政策があり、基本的には5つの政策推進、的確に実行していくための、人や組織や財政のあり方について意見をいただき市が計画を決定していく。</p>
委員	<p>資料 P65 に5本の基本政策があり、5本それぞれの分野に検討会や審議会があると思う。そしてそれぞれの具体的な計画と、10年間をどういった計画にしていくかをこの委員会に投げて進めるということか。</p>
事務局	<p>資料5にもあるが、総合計画審議会の中でも今後のまちづくりの課題や、より良い方向性について審議していただいている。その方向性が良いかどうかは総合計画審議会だけではなく、それぞれ審議会等にも投げかけながら検討していただく。</p>
委員長	<p>先ほど市長からいただいた諮問書を読ませていただく。</p> <p>・・・諮問書を読み上げる・・・</p> <p>法律的なので難しいが、先ほどの話の中では“意見を言っていたのが</p>

	<p>一番重要”ということになる。</p>
委員	<p>決定権があるのか。</p>
委員長	<p>委員の意見（答申）を受けて、市長が計画を決定することになる。</p>
委員	<p>P65、政策横断プロジェクト。“縄文を活かしたひとづくり、まちづくり”とある。以前は観光と縄文と入っていたかと思う。今、市で進めているのも“観光を活かしたまちづくり”と、しっかり銘打っている。今度は縄文だけなのか、説明をいただきたい。</p>
事務局	<p>観光については、5次総の体系(案)に【まちづくりの基本指針】として示した“②まちの活力の向上を図る仕組みづくり”があり、この中に現在進めている観光まちづくり、DMOに向けた取組み、理科大と連携した産業振興等の内容を含んでいる。</p> <p>縄文については、政策横断プロジェクトに示した“縄文を活かしたひとづくり、まちづくりの推進”の横断的な位置づけとなっている。縄文からといった教育分野にも縄文を広め、産業だけではなく縄文を活かした取組を横断的に進めていきたい、そんなことから縄文については政策横断プロジェクトに位置付けている。</p>
委員	<p>P65の5次総の体系について、総合計画審議会で検討し、行革市民委員会でそこに対して意見を出すとするとこの委員会の位置づけが分からない。</p>
副市長	<p>現在、市の最上位の計画として第5次茅野市総合計画を策定している最中である。</p> <p>委員から指摘があったように、全体に総合計画の流れというものは承知をしていただく必要がある。委員会で進捗状況等は逐一報告しながら計画策定へのご意見をいただきたい。</p> <p>P66の茅野市行政経営基本計画策定方針や諮問書にもあるように、基本計画の策定についての観点、位置づけ、性格、計画の構成について可能であれば、本日方向性のご確認をしてご了承いただきたい。</p> <p>P66の“計画の構成”の4項目、この柱について委員会としてご審議いただければ、それに基づいて次回までに事務局が案を作り、それを示して意見をいただくという流れになる。</p> <p>5次総の中で行政経営の計画は総合計画を進めるうえでの下支え・後ろ盾といった位置づけになっていく。</p>
事務局	<p>・・・行政経営基本計画の位置づけについて補足説明・・・</p> <p>5次総は茅野市の市政、まちづくりを進めていく上で最上位の計画であるという事である。“こういうまちを目指す”という将来像は未定だが、それを目指すために何をしていくのか、どういう手段を取っていくのかというのが【まちづくりの基本指針】や【基本政策】となる。各分野には、ビーンズプラン、どんぐりプラン、高齢者保健福祉計画等、様々な計画がある。それを5次総の将来像を実現するための計画として位置づけていく。</p> <p>そして行政経営基本計画は、P65、5次総体系(案)のピラミッド下部にあ</p>

	<p>る、【基本政策・政策横断プロジェクト】の下支えや、後ろ盾といった性格を持つ。行政経営基本計画は行政経営分野を包含する計画として位置付けていく。この分野の計画について委員の皆様からご意見をいただき策定を進めていくといった流れとなる。</p>
委員	<p>まちの活力の向上を図る仕組みづくりについて、よそのまちでは産業道路と称して工場の為の道路を市街地とは別の場所に作り、市街地が衰退したということがあった。まちの活力の向上は、まちの魅力の向上も視野に入れてほしい。</p> <p>女性目線による感覚的な感性も大変重要だと思う。</p>
委員長	<p>この行政経営基本計画は5次総の下支えであり、今後もいろいろな意見や質問が出てくると思う。これからの委員会の進め方としては、P66にある4本の柱を基にしてこの委員会を進行していきたいと思うがいかがか。</p>
委員	<p>財政は全ての分野に関係してくる。そこで優先順位を付けたり規律のある財政をするための仕組みを、行政経営基本計画の中ではっきりしていく必要はある。</p> <p>今までの政策運営については行財政改革推進プログラムの中の項目だけについての計画と評価をしてきた。今後は各分野についても評価をしていくことになるのか。</p>
事務局	<p>この委員会では、各分野のお金の使い方までチェックするようなことは想定していない。例えば、「評価の枠組みの考え方の方針」といったような視点で検討をしていただきたい。</p>
委員	<p>仕組みを考えるとということでよいか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員長	<p>4本の柱を基に行政経営基本計画の策定を進めていくということでよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
事務局	<p>9 その他</p> <p>次回の委員会は、9/14(木)を予定している。</p>
副委員長	<p>10 閉会</p> <p>今後の委員会の取組み内容については、P8を参考にしてもらいたい。</p> <p>これから2年間、委員の皆さんの知恵、意見をいただきながら第3次行財政改革推進プログラムの進行管理と新しい行政経営基本計画の答申ができるよう、ご協力をいただきたい。</p>